

講演要旨の記入例

100mm

○吉武佐紀子*・福島博**：栗駒山周辺の強酸性水域に出現する珪藻植生

栗駒山は標高 1628m の栗駒山本峰をはじめいくつもの火山によって形成されており、その周辺には多くの火山性の酸性水域がみられる。今回は、昭和 19 年のガス爆発によって生じた昭和湖(pH2.9-3.3), 山腹からの湧水 (pH4.1), 火口湖である須川湖 (pH3.6)において、1998 年 8 月に採集した付着珪藻を中心に調査した結果を発表する。昭和湖では湖岸の 3 ケ所において epilithic, epipsamic, epiphytic な珪藻を調査したが *Pinnularia brauniana* が 98% 以上を占め、その他 *Eunotia exigua*, *E. nymanniana*, *Frustulia rhomboides*, *F. rhomboides* var. *saxonica*, *Pinnularia acoricola*, *P. microstauron* が低頻度で出現した。須川湖は 1997 年 9 月にも調査を行っており、この時のデーターと比較すると epipsamic なものの優占種が、*Pinnularia brauniana* (49.1%) から *Eunotia nymanniana* (50.9%) と変化している。1998 年は NH₄-N, NO₃-N, T-N, PO₄-P, T-P, SiO₂ は 1997 年より増加しており、このことが優占種の変化に関係があるのか検討してみたい。今回の調査水域の水質分析に協力くださった日本工学院専門学校の猪口真美氏に感謝の意を表したい。

(*湘南短期大学, **藻類研究所)

記入上の注意：上記、記入例にならって、ワープロまたはパソコン等を使い、そのまま印刷できるように仕上げて下さい。また、図を入れる場合には、要旨原稿サイズの範囲内（横 100mm × 縦 150mm）におさめて下さい。なお、印刷は約 2/3 に縮小されます。スケールの入れ方など、縮小されることを考慮して作成して下さい。